

令和4年度 日之影町立高巣野小学校 学校評価

○「評価」について、目標の達成度に基づき、次の4段階で評価を行う。
 4：期待以上、3：期待どおり、2：やや期待を下回る、1：改善が必要
 ○「評価者」…「第一次」：学校による自己評価、「第二次」：保護者評価、「第三次」：学校運営協議会委員評価

評価	達成目標と方策		第一次評価者所見	評価		
				第一次	第二次	第三次
学力向上	1	45分の授業の充実を図るとともに5分以上の習熟の時間を確保し、「分かる授業」「鍛える授業」を目指し、児童に確かな学力を身に付けさせ、各種学力検査で全学年、全領域で平均（全国・県）を上回るようにする。	2学期の全学年の単元テストの結果の平均は、国語90点、算数85点で、昨年度より若干の向上が見られた。全国学力調査では、国語57.0（国65.6県65.0）、算数57.0（国63.2県61.0）であった。児童一人一人の理解や思考を十分に把握して、学習問題の分析や児童苦手分野の解説と演習に取り組み、次の学年に向けた学びの見届けを確実に行うようにする。	3	3	3
	2	簡潔で分かりやすい指示・発問に努め、85%以上の児童が集中して話を聴いたり、自分の考えを進んで発表したりすることができるようにする。	97%の児童ができると回答した。どの授業でもタブレット等のICTを活用して個人の考えをまとめ、その後友達のを聞いて自分の考えとの相違を考えさせる等の工夫をしたことで、集中して聞いたり、発表したりできるようになったと考えられる。継続して取り組み、学力の定着に結び付けるようにする。	3	3	3
	3	ICT機器等を利用して個人や集団でしっかり思考する場を工夫するとともに、対話型の発表を通してみんなで考えをまとめていくことができるようにする。	97%の児童ができると回答した。タイピング練習を行うことでICT活用の抵抗を少なくさせ、ICTを活用して一斉に提示・分類することで話し合う時間の確保がこれまで以上に増えたことで考えをまとめられ、意見を進んで発表することが徐々にできてきた。学力としてしっかり定着させるため継続した指導が必要である。	3	3	3
	4	読書指導や読み聞かせの充実を通して、1週間に1冊以上借りる等の個人読書目標をもたせ、90%以上の児童が目標を達成できるようにする。	82%の児童ができていますと回答した。しかし、教職員37%、保護者36%と低い回答であった。昼休みだけでなく朝の時間や放課後にも本の貸出を行い、本に触れる機会を設けた。読み聞かせについては、図書活動推進委員による給食時間の放送や読み聞かせグループの活動を利用して本の紹介や読み聞かせを行った。読書通帳への記録は児童は楽しみにしているようである。	2	2	2
生徒指導	1	あいさつや返事、礼儀の指導を徹底し、学校や家庭、地域で時と場に応じたあいさつやお礼など85%以上の児童が達成できるようにする。	88%の児童ができると回答した。昨年度と変わらない。しかし、保護者は86%と若干低めで差が見られた。学級での指導に加え、児童会を中心としたあいさつ運動で意識を高めており、校内ではしっかりあいさつできているが、校外でのあいさつが課題である。一人でもあいさつできるよう継続して指導する。	3	3	3
	2	思いやりのある行動や丁寧でやさしい言葉遣いを85%以上の児童ができるようにする。	97%の児童ができると回答した。学校生活の中で上級生が下級生を思いやる言動や友人間で困っている友達を気遣う場面が多く見られるが、普段の友人間のやり取りの中では、馴れ合いから軽く荒い言葉遣いで対応する場面が見られる。人権意識が高まるように、その場その場での指導を継続する。	3	3	3
	3	ろうか歩行や室内での過ごし方など、考えて半断・行動し、85%以上の児童がけじめのある行動がとれるようにする。	100%の児童がけじめのある行動がとれていると回答した。教職員の評価は、89%で、保護者は60%と意識の差が見られた。昨年度の教職員の50%からはよくなってきているものの引き続き学校での過ごし方等、場に応じたけじめのある行動を賞賛し行動が変容するよう継続して指導する。	3	3	3
	4	学校・地域における行事やボランティア活動等に90%以上の児童が進んで参加できるようにする。	100%の児童が進んで参加していると回答した。学校での朝のボランティア活動に意欲的に参加している。児童の教え合いや声の掛け合いが見られ、高学年のリーダー性や児童間の思いやりの心が育つよい機会になっている。これからも継続したい。	4	3	4
体力向上、安全指導	1	体育指導法の充実を図り、90%以上の児童が全力で運動に取り組むとともに、友達と協力しながら競技することができるようにし、「県体力テスト」でA及びB判定の児童が70%以上になるようにする。	100%の児童が全力で運動に取り組んでいると回答した。体力テストA判定は1名であった。新規はなし。本年度も体育だけでなく昼休みの運動等元気に活動する児童がみられた。「県体力テスト」では、A及びB判定の児童は12人で36.4%となり目標を下回った。C判定の14人（42%）をはじめD判定のグループを向上させたい。この体力向上はさらに指導を工夫し、柔軟性を高める運動も継続して取り組ませる。	3	4	3
	2	「学校で天気の良い日には、昼休みに友達と仲良く外遊びをしている」と回答する児童が90%以上になるようにする。	97%の児童が外遊びをしていると回答した。全校や各学級において「みんなで遊ぶ日」を設定し、外で遊ぶことを促したり学級担任が一纏めに遊んだりすることで、進んで体を動かしたり、集団遊びの楽しさを味わったりした。引き続き推進する。	4	3	4
	3	立腰指導を徹底し、「様々な場面（学習・給食など）で姿勢に気を付けている」と回答する児童が80%以上を達成できるようにする。	87%の児童が姿勢に気を付けて話を聴いていると回答した。毎日の授業開始と終わりの号令「立腰」で意識させるだけでなく教師も意識して指導している。昨年度以降「立腰」の指導を行ってきたが引き続き意図的・計画的な指導を行う。	2	3	3
	4	家庭と連携して生活リズムやメディアの利用の注意喚起を図り、「8時間以上の睡眠をとり毎朝朝食を食べている」と回答する児童が100%になるようにする。	91%の児童ができていますと回答した。学習へのタブレット活用によりメディアへの関心が高まっているが、一方で長時間メディアやタブレットを扱ったり、睡眠時間を削ったりが増えてきており、朝から眠そうにしている児童がいる。引き続きすこやか週間の取組や学級通信、保健だよりでの啓発も継続していく必要がある。	3	3	3
家庭・地域との連携	1	保育園への訪問や保育園生の小学校体験などの相互の交流の充実を図り、互いのよさを味わわせるとともに、職員間の研修や交流も行き、連携した教育を推進する。	本年度も低学年と保育園児との体験交流を本校で実施することができた。1・2年生は保育園を訪問しての交流活動も実施することができた。複式学級で年長と1年生は同じ学級になることもあり、交流の仕方の工夫を行い、互いのよさを味わわせている。教職員の交流を行い、保小連携した指導の在り方を協議し、指導に生かしていくようにしている。	3		3
	2	町教職員研修会や町教育の日、集合学習等への積極的な取組を通して、小・小中の連携した教育の充実を図る。	町教職員研修会での授業提案や研究協議の充実を目指して、主題研究に力を入れて取り組んだ。ICTを活用して自分の考えをまとめ、発表し、話合中で深めていく研究に取り組んだ。今後も小・小中の連携を進め、他校の実践も取り入れたながら教育活動の充実を図っていくことが大切である。	3		3
	3	コミュニティースクールとしての機能を生かし、家庭や地域との連携を深め、家庭や地域社会の教育力の積極的な活用を図る。	各教科等では、児童が地域に出かけたり講師を招聘したりして地域を知り、ふるさとを愛する心情を育むことができた。また、規模縮小ではあったが「ふるあひ会」や「秋季犬運動会」、「奉仕作業」など実施することができ地域の方にも参加や応援に来ていただき、絆を深めることができた。	3		3